

## 杉並区長寿応援ファンド助成活動報告書(平成28年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 子ども・若者世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 世代間の交流を進める活動 <input type="checkbox"/> 誰もが住みやすいまちづくりを進める活動		
活動名	医療・介護の専門職が体操教室を通じて、高齢者の早期相談、支援ができる地域を作る		
団体名	上荻元気プロジェクト (平成 27 年 12 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	263,002 円		
助成額(当初交付)	529,000 円	助成額(決算)	164,430 円
活動目的	・高齢者が健康寿命を延ばし、地域で元気に暮らし続けるために元気なうちから地域の 専門職と顔の見える関係を作る事が出来自らが専門職に相談する環境を作る。 ・専門職が高齢者の変化にいち早く気づく事で、異常の早期発見や適切なタイミングで支援に繋がる。		

### 1 活動の実施状況

**\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	4/1 体操 生活相談 参加者13名 スタッフ6名 チラシの配布	4/14 体操 生活相談 参加者16名 スタッフ5名 チラシの配布
	4/15 体操 生活相談 参加者12名 スタッフ5名 チラシの配布	4/28 体操 生活相談 参加者10名 スタッフ5名 チラシの配布
	5/6 体操 生活相談 参加者17名 スタッフ5名 チラシの配布	5/12 体操 生活相談 参加者14名 スタッフ4名 チラシの配布
	5/20 体操 生活相談 参加者17名 スタッフ4名 チラシの配布	5/26 体操 生活相談 参加者16名 スタッフ4名 チラシの配布
	5/28 イベント 参加者40名 スタッフ25名 チラシ配布 広報掲載 (西荻区民センター、杉並さわやかウォーキング協働事業)	6/9 体操 生活相談 参加者11名 スタッフ5名 チラシの配布
	6/3 体操 生活相談 参加者11名 スタッフ4名 チラシの配布	6/23 体操 生活相談 参加者12名 スタッフ4名 チラシの配布
	6/17 体操 生活相談 参加者21名 スタッフ5名 チラシの配布	7/14 体操 生活相談 参加者17名 スタッフ5名 チラシの配布
	7/1 体操 生活相談 参加者9名 スタッフ5名 チラシの配布	7/28 体操 生活相談 参加者9名 スタッフ4名 チラシの配布
	7/22 体操 生活相談 参加者17名 スタッフ5名 チラシの配布	8/9 体操 生活相談 参加者14名 スタッフ5名 チラシ配布
	8/5 体操 生活相談 参加者14名 スタッフ5名 チラシの配布	8/25 体操 生活相談 参加者9名 スタッフ5名 チラシ配布
	8/19 体操 生活相談 参加者21名 スタッフ8名 チラシ配布	9/8 体操 生活相談 参加者8名 スタッフ5名 チラシ配布
	9/2 体操 生活相談 参加者19名 スタッフ8名 チラシ配布	9/29 体操 生活相談 参加者5名 スタッフ4名 チラシ配布
	9/16 体操 生活相談 参加者16名 スタッフ5名 チラシ配布	10/12 体操 生活相談 参加者6名 スタッフ2名 チラシ配布
	10/7 体操 生活相談 参加者15名 スタッフ4名 チラシ配布	10/27 体操 生活相談 参加者5名 スタッフ4名 チラシ配布
	10/21 体操 生活相談 参加者27名 スタッフ4名 チラシ配布	11/18 体操 生活相談 参加者26名 スタッフ4名 チラシ配布
	11/4 体操 生活相談 参加者16名 スタッフ4名 チラシ配布	12/2 体操 生活相談 参加者16名 スタッフ4名 チラシ配布
	11/24 雪の為、中止	12/16 体操 生活相談 参加22名 スタッフ4名 チラシ配布
	12/14 体操 生活相談 参加者6名 スタッフ3名 チラシ配布	1/6 体操 生活相談 参加者16名 スタッフ5名 チラシ配布
	12/22 体操 生活相談 参加者5名 スタッフ3名 チラシ配布	
	<p>①日付・開催場所…毎月1週おきに違う地域で4回実施 (上荻・西荻・今川・桃井地域)</p> <p>②活動内容…理学療法士や柔道整復師などの専門職による自宅でできる体操を取り入れた体操教室を実施することで、参加している高齢者が体操を習慣化する事ができた。          早期から専門職と繋がる事により認知症など異常の早期発見や見守りを実施することができた。          他の団体と一緒に地域住民を対象とした40名程度のイベント実施した。</p> <p>③人数(参加者、スタッフ)          ・参加者…各会場10名～20程度の地域住民が定期的に参加。          ・スタッフ…福祉用具などの各業者やケア24などがボランティアスタッフとして参加。          講師は各デイサービスやデイケアなどの理学療法士などが実施。          3か月ごとに講師は会場を変更し体操を実施。ボランティアスタッフと講師合わせて 毎回4～8人程度が活動中。</p> <p>④周知方法…ケア24の協力も得ながら地域住民にチラシ配布した。最近は口コミで集客が増えている。</p>	

活動名	医療・介護の専門職が体操教室を通じて、高齢者の早期相談、支援ができる地域を作る
-----	---

## 2 実施活動の効果・成果

\* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシを作成し多くの住民に周知することができたことにより地域住民の健康寿命延伸に貢献できている。</li> <li>・体操前に血圧測定を実施し、安全に体操を行えている。</li> <li>・セラバンドやボールを利用することでより負荷のかかった体操を実施でき、参加者のモチベーションアップにも効果があった。</li> <li>・消耗品を購入したことで効果的な体操が実施でき集客にもつながった。</li> <li>・体操教室後の茶話会実施などから参加者同士が繋がり、地域の中で支え合う関係の構築が出来てきてきている。</li> </ul>
-------	---

## 3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

\* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を継続していくためには、地域住民、事業所の協力が不可欠であると考えている。</li> </ul> <p>(活動予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4地域での定期的な体操教室を継続開催する。</li> <li>・H29/5/20に西荻地域区民センターと協働イベントを開催する。</li> <li>・体操終了後の茶話会を通して、地域住民の互助再構築ができるように働きかける。</li> <li>・ケア24上荻エリア以外での活動も視野に入れていく。</li> </ul>

## 4 収支決算書

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳	
収入	長寿応援ファンド助成金	529,000	164,430	
	団体負担金	1172	972	
	活動収入	288,000	190,200	参加費300円×634名=190,200(4月～3月)
	その他の収入			
	計	818,172	355,602	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	医療・介護の専門職が体操教室を通じて、高齢者の早期相談、支援ができる地域を作る
-----	---

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
	謝礼金等	96,000	129,000	講師料 2,000円～3,000円 ×46回
			うち 助成額	
	消耗品費	226,812	130,146	①セラバンド+セラチューブ各2種類 44890円 ②ゴムボール25個+ボールポンプ2本 21476円 ③血圧計3個 21096円 ④握力計2個 39312円 ⑤お茶・お菓子代 3372円(助成対象外)
			うち 助成額	126,774
	旅費 ・交通費			
			うち 助成額	
	印刷費	240,000	19,656	チラシ印刷代 4種類×2000部
			うち 助成額	19,656
	通信運搬費			
		うち 助成額		
使用料・賃借料	48,000	48,000	会場使用料 1500円×12ヶ月	
		うち 助成額	18,000	
備品費	207,360			
		うち 助成額		
その他の経費		28,800	保険料	
		うち 助成額		
計	818,172	355,602	執行率 (決算額/予算額) 43.5%	
		うち 助成額	164,430	
			予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること	

活動名	医療・介護の専門職が体操教室を通じて、高齢者の早期相談、支援ができる地域を作る
-----	---

## 5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input checked="" type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の申請目的欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシを作成し、多くの地域住民に周知ができ、健康寿命の延伸に貢献できている。</li> <li>・体操前に血圧測定を実施し、安全に体操を行っている。</li> <li>・セラバンドやボールを利用することでより負荷のかかった体操を実施でき、参加者のモチベーションアップにも効果がある。</li> <li>・消耗品を購入したことで効果的な体操が実施でき集客にもつながった。</li> </ul>
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がり了吗か。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
	参加者 「ここに(体操教室)きて、色々相談できるので安心だわ」「今後も是非続けていただきたい」「ここに来ると元気になるわ」 支援団体 「とてもいい活動なので是非一緒にやっていきたい」「住民の方の生の声が聞ける貴重な場」「杉並区全域に広げていきたい活動」「住民同士の繋がりができるコミュニティになってきている」
問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が健康寿命を延ばし、地域で元気に暮らし続ける。(健康寿命の延伸)</li> <li>・高齢者が元気なうちから地域の専門職と顔の見える関係をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 高齢者が自ら専門職に相談しやすくなる。(高齢者の安心、早期発見、早期支援に繋がる)</li> <li>② 専門職が高齢者の変化にいち早く気づき、適切なタイミングで支援に繋げることができる。(高齢者の安心、早期発見、早期支援に 繋がる)</li> </ul> </li> <li>・体操教室の参加者同士が繋がり、地域の中で支え合う関係の構築が出来てきている。(互助の再構築)</li> </ul>	
問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者や支援団体の信用が上がり、参加者、支援団体の増加に繋がった。(支援団体が4事業所→13事業所)</li> <li>・チラシに長寿応援ファンド助成のマークやその旨を記載する事により、活動に対する信頼度が増したと考えている。</li> </ul>	
その他	問8 自由意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回助成額に対し決算額が大きく下回る結果となった。理由としては <ul style="list-style-type: none"> <li>①購入予定であった徒手筋力計は実際に使用した事業所より機能的な必要性を提議され、もう一度メンバーで確認・検討したところ今回は購入しないと言う結論となった。</li> <li>②セラバンドなどの消耗品が1個単位の価格で計上し実際はまとめて購入できたことで価格を抑える事ができた。</li> </ul> </li> <li>上記理由から助成額に対し決算額が下回る結果となったが、消耗品をまとめて購入する事により価格が抑えられ無駄な消費に繋がらずに済んだと考えられる。しかし、申込時にきちんとした助成額を見いだせなかった事は今後収支の課題である。</li> </ul>

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 子ども・若者世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 世代間の交流を進める活動 <input type="checkbox"/> 誰もが住みやすいまちづくりを進める活動		
活動名	ご存知ですか失語症 パートⅡ		
団体名	特定非営利活動法人日本失語症協議会 (昭和 59 年 9 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	744,491 円		
助成額(当初交付)	720,000 円	助成額(決算)	695,076 円
活動目的	高次脳機能障害の代表的な症状の一つである失語症は、現在は単独で身体障害として制度に組み込まれているがそのサービスは当事者のニーズに足りていない。脳損症による言語の障害は単一ではない為、症状の解明の課題も多い為、なかなか支援の方向性が見えてこない現状にあるといえる。そのような失語症の実態を社会に啓発していくための目的がある。		

## 1 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

実施状況	1) 開催日程: 平成28年7月17日、8月21日、9月18日、10月2日 合計4回 2) 開催場所: 榊言語生活サポートセンターグループ訓練室 3) 対象者: 失語症当事者、ご家族、支援者等 4) 参加者: 第1回43名、第2回43名、第3回32名、第4回24名 スタッフ3名 5) 講座 第1回講師: 慈恵会第3病院医師渡邊修先生・失語症の原因と理解 第2回講師: 中野共済病院言語聴覚士津村恒平先生・失語症の方といし疎通支援方法 第3回講師: 府中療育センター言語聴覚士山本弘子先生・失語症ご夫妻岡田充弘・理砂子ご夫妻、若い失語症者高浜博之さんとのトークセッション 第4回講師: 大久野病院社会福祉士伊藤正一先生・失語症に関する社会福祉資源の話		

活動名	ご存知ですか失語症 パートⅡ
-----	----------------

## 2 実施活動の効果・成果

\* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>参加した方々のご意見をまとめていくと、参加の多くの方々が失語症が人の社会生活に及ぼす大きな障害であることを実感されている。失語症は身近な障害であるにもかかわらず、障害を目で見て確認できないために、多くの方から、『身内が失語症にならなければ名前さえ知らなかった障害』として、今まで、福祉の谷間にあった障害だった。参加者の多くは失語症を家族をお持ちの方、福祉関係者(ケアマネジャー等)の方々であった。4回の各講師の違った角度からの講座を通して、知らなかったことを知ることができたとの回答が多くあった。このような失語症の現状を少しでも多くの方々に知っていただけたこと、また、杉並区の助成を受けたという事で実施できたことを大変感謝しております。特に、福祉関係者に知っていただけたことで、区内の失語症の理解が広がってきたのではないかと推察している。</p>
-------	--

## 3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

\* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>今まで福祉環境の谷間にあり、サービスから取り残されている「見えない障害である失語症」に関する問題点は計り知れない。今後、障害者総合支援法(2013年)の施行後3年の見直し規定で、失語症者に対する意思疎通支援事業は、社会保障審議会障害者部会での議論を経て、「失語症など障害者種別ごとの特性やニーズに配慮したきめ細かな見直しが必要」との報告がまとまっている。平成29(2017)年度から失語症者向け意思疎通支援養成が開始される。失語症のある方の意思疎通が潤滑にいくかどうかはある意味、死活問題である。今後、杉並区では失語症のある方々の意思疎通支援者の養成に是非お力をお貸しいただきたい。失語症協議会は意思疎通支援者の養成に相まって、失語症がどのような症状であるかを多くの皆様を知っていただくために、今後の活動を継続していきたい。地域の方々、行政の方々に失語症を知っていただく「出前事業」を計画していきたい。あなたの隣に存在するかもしれない失語症のある人、あるいはある日突然家族が失語症になるかもしれないという事を頭に置きながら、脳卒中の予防、風邪をひいたときの薬の乱用をしない、交通事故等の危険からの回避等に日々の心配りを惜しまないでいただきたい。という事を皆様を知っていただく機会を作っていく予定である。失語症者の意思疎通支援者の養成・派遣については、失語症者とのコミュニケーション体験など多くの経験を積む必要があること、失語症の症状は十人十色で、各人の症状に応じた支援が不可欠であること、失語症の障害特性とその方の生活歴等を把握し、その方の思いを推測できることなど、失語症者と支援者との信頼関係を築くことなどが大事になり、なかなか困難ではあるが、是非とも、失語症者の社会参加を進めるためにもこの事業を達成させていきたい。</p>

## 4 収支決算書

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳	
収入	長寿応援ファンド助成金	720,000	695,076	
	団体負担金	50,000	415	
	活動収入	20,000	49,000	1、2、4回分講演会資料代@500×98
	その他の収入			
	計	790,000	744,491	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	ご存知ですか失語症 パートII
-----	-----------------

費目	予算額(円)	決算額(円)		内訳・増減理由
		うち 助成額		
謝礼金等	450,000	410,000	410,000	内訳 Dr50000×1 ST.MSW30000×3 当事者10000×3 要点筆記者30000×2×4回 増減理由 職種変更、人数減
消耗品費				
旅費・交通費	80,000	50,076	50,076	市川⇄荻窪 1名 青森⇄都区内 2名 送金手数料 増減理由 依頼予定者の人数・旅費の変更
印刷費	40,000	52,253	35,000	外注・チラシ、ポスター、テキスト印刷製本代+送金料 49,984 事業所内プリント・アンケート集、写真、質問用紙、アンケート用紙、参加者申込、出欠席管理表 2,269 増減理由 協議会プリント分追加
通信運搬費				
使用料・賃借料	160,000	160,432	145,000	会場費@30000×4回 プロジェクター@5000×2台×4回 送金料432
備品費				
その他の経費	60,000	71,730	55,000	受付、頒布その他:5000×3名×4回 行事保険@58×50人分×4回 払込手数料130 増減理由 行事保険分追加
計	790,000	744,491	695,076	執行率 (決算額/予算額) 94.2% 予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

3

活動名	ご存知ですか失語症 パートII
-----	-----------------

## 5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の申請目的欄に記載した内容に対応させてください。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	4回の講師の違った勉強会は、各界の特徴をしっかりと把握した参加者に反映され、1回目では失語症の知識を得、2回目は失語症者との意思疎通支援の方法を学び、3回は家族当事者の今までの経験とこれからの生活の道筋を一緒に考え、4回は失語症者とその家族が日常生活を送るために必要な社会的資源の最大限の利用方法を学ぶことができた。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がり了吗か。
	<input type="checkbox"/> 広がった <input checked="" type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
全日程を通して要点筆記が解りやすく参加者への理解を助けてくれた。失語症という見えない障害の理解ができた。現在入院中の家族の退院後の対応の仕方が理解でき不安が少し取り除かれた。年金申請、身体障害者手帳認定などの申請等の知識を得ることができた。脳の仕組みが良く分かった。失語症の症状が良く分かった。参加型でよかった。復習して失語症者とのコミュニケーションに役立てたい。臨床を通しての話も聞きたかった。実技を交えての講習会が良かった。大変参考になった。ケアマネの仕事に有効であった。満足度の高い学習会でした。ご家族当事者の生の声が聞けて良かった。同じ悩みを抱えている人が沢山いるとわかって励まされた。リハビリに関してもっとよく知りたい。失語症者と家族との会話のパイプをもっと太くしていきたい。家族の話聞いてくれる人が必要だと思った。このような講座を毎年開催してほしい。	
問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。	
地域のケアマネジャーの方々への参加もあり、失語症の方とのアセスメントの際などに、今回の知識が有意義だとの話もあり、地域の失語症のある方々には、ケアマネージメントが適切に働いてくれるのではと思う。また、社会資源の情報などでは、失語症のある方ばかりではなく障害のある方ご家族等に、どこにどのように申請にいけばよいのか、それには何が必要でどうすればいいのかなどの情報も流せたと思う。見えない障害である失語症を一人でも多くの方々にご理解いただけることが失語症のある方々の社会参加の足掛かりになっていくはずである。	
問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。	
この事業が杉並区のファンド助成を受け、実行できたことは大変有意義な活動となったと確信する。日本全国に約100会ある加盟失語症友の会と、その他の会員約300名に実績報告として紹介した。各県にある加盟友の会には、日本失語症友の会の事務局のある杉並区での今回の活動をモデルとして、同じような事業を開催して失語症の啓発事業に力を入れていく方向に進んだ。また、今回の事業の中で行った、失語症家族のトークセッションは、大変好評で、29年度には、協議会として、杉並地域で、出前授業と題して、家族と当事者のトークセッションを繰り広げ失語症の理解を深めていく方針を固めている。	
その他	問8 自由意見
	会場が狭いことで、参加者に机を用意できなかったことが悔やまれる。当初は20名ほどの参加、4回で80名を予定していたが、思いのほか多くの方々のご参加で、ご不自由な思いをさせた。次回は、会場を少し広げることなどを考慮に入れて実施したい。

## 杉並区長寿応援ファンド助成活動報告書(平成28年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 子ども・若者世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 世代間の交流を進める活動 <input type="checkbox"/> 誰もが住みやすいまちづくりを進める活動
活動名	認知症の人や家族が孤立しないまちづくりとしての食をツールとした拠点づくりと訪問活動
団体名	NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラ



団体名	ジン (平成 13 年 11 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	540,634 円		
助成額(当初交付)	520,000 円	助成額(決算)	485,734 円
活動目的	高齢者や家族介護者にとって、日々の食事の問題は大きく、生活支援サービスの一環として、訪問して食事を作り、見守りながら食事を共にする、という地域のサービスと支える人材の育成を実施する。さらに介護者も要介護者も地域の人とつながる「認知症カフェ」の拠点を地縁組織とともに設置する。		

## 1 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

実 施 状 況	<p>1. 実践ボランティア養成講座(7月16日・22日・29日・8月4日・25日・9月2日) 阿佐ヶ谷区民センター・ゆうゆう阿佐ヶ谷館 【基礎講座】</p> <p>①公開講座「認知症になっても地域で生きぬくために」・・・(25名)樋口恵子氏より講演 交流ランチ会を実施。(18名) ②地域のカフェ活動事例・・・(18名)「ららカフェ」「認知症カフェ」「ケアラーズカフェ」など高齢者や介護者がつどう場の活動 事例を報告。地域別ワークショップを行い、カフェの役割や地域課題について共有し、仲間意識を高めた。 ③傾聴基礎講座&amp;ロールプレイ・・・(16名) 気持ちに寄り添う傾聴の基礎と演習を行う。 【実践講座】 ゆうゆう阿佐ヶ谷館・東一会館</p> <p>①「しょってくサービスとは」②食事づくりとだんらんシュミレーション(8月4日)・・・(14名) 訪問し食事づくりを行う活動の説明と実際の食事づくりとだんらんの体験を行った。</p> <p>③公開講座「認知症を知り、地域の人に寄り添う」・・・(7月29日)(28名)成宗診療所 加藤先生の講演と食事会 *実際に会館の厨房を借り、食事づくりを行い、食事会を実施。(8月25日)</p> <p>2.①地域の生活支援サービス立ち上げにむけた運営会議(地域のつどい)毎月開催 ②「すぎなみ支えあい倶楽部」発足会(9月30日)・・・(32名)梅里区民集会所:バザー・蓄音機コンサート・発足会・交流カフェ 3. 東一会館 カフェ・10月17日)・・・(26名)</p> <p>4. ボランティアフォローアップ講座(1月27日)・・・(6名) 移動サービスの活動とは</p> <p>5. 和田ほっとカフェ・(2月1日)・・・(29名) 「認知症の理解と対応」 講義(和田診療所 樫尾先生)と交流カフェ</p> <p>6. ①「ケアラーズカフェ 都会(まち)の実家」オープンイベント(1月19日)(20名) おしるこ大会 ②「ケアラーズカフェ」食事づくり 練習 (2月3日・2月9日・2月13日)・・・(8名) メ ニューづくりと実践 ③「ケアラーズカフェ」オープニングイベント(2月16日)・・・(24名) バザー・発足式・みんなで歌おう ④「ケアラーズカフェ」ランチ(2月23日・2月27日・3月2日・3月6日・3月9日・3月13日・3月16日・3月23日・3月27日)・・・(延べ56名) ⑤「ケアラーズカフェ」運営会議(3月30日)・・・(14名) 【カフェ交流会】 (3月17日)SKホール</p>

1

活動名	認知症の人や家族が孤立しないまちづくりとしての食をツールとした拠点づくりと訪問活動
-----	---

## 2 実施活動の効果・成果

\* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果

1. 地域の(認知症の人を含む)高齢者や介護者が気軽に立ち寄れるつどい場がいくつか立ち上がった。
  - ①「ケアラーズカフェ in 都会(まち)の実家」(成田東4丁目)
  - ②「東一会館」(町会会館)(成田東4丁目) ③和田ほっとカフェ(和田一丁目)
2. 食を中心とした地域活動の拠点ができた。(自宅の1Fリビングを地域に開放した形での「ケアラーズカフェin 都会(まち)の実家」が立ち上がった。週2回 研修を受けたボランティアさんたちを中心に手作りのランチ(500円)を提供する地域食堂の場をスタートさせたが、食事づくりのボランティア活動を楽しむ高齢女性がロコモで次々集まり、支援の輪が広がった。ここには日頃の食事に困る高齢男性が日常的に通っている。(ひとりは認知症の妻を介護する90代男性)その方を見守る地域の支えあいの輪ができつつある。
3. ボランティア養成講座をきっかけに、生活支援サービスを担う地域のグループが立ち上がった。(民生委員や町会長も重要なメンバーに加わった。)現在少しずつ見守り等の試行サービスを始めている。地域の人たちの活動ニーズを掘り起こすきっかけになった。
4. なかなか活用されていなかった町会会館を町会さんや民生委員さんたちと一緒に、相談しながら認知症カフェやまちの イベントをスタートできた。
5. 「認知症カフェ」(イベント)をきっかけに個人宅を活用した認知症を含む健康予防のカフェ「和田ほっとカフェ」ができた。
6. 認知症をテーマとした「認知症カフェ」のイベントを契機に、地域の居場所へのニーズを掘り起こし、支える人を組織することで継続する活動を誕生させることができた。

### 3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

\* 課題の要因も併せて記入してください。

#### 活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定

課題・活動予定

当初は、認知症の人を抱える家族に訪問し、食事づくりを行うボランティア活動の実施をイメージしていた。今回はそのための準備としてのチームづくりや拠点づくりは確実にできたといえる。しかし実際に訪問をするまでには至らず、今後の実践課題となった。訪問実践が実現するまでにはいろいろな障壁があることもメンバー内で議論する中でわかってきた。まずは拠点の中で食事づくりを行ったり、そこで地域の人たちとなじみの関係になることも重要な要素である。潜在的には孤立する家族や認知症の高齢者は多いと思われるが、今後は拠点を中心に、地域包括支援センターやケアマネジャーと連携しながら、潜在ニーズの掘り起こしと、地域の訪問ケアに力を入れていきたいと考えている。また将来的には配食サービスなどの活動も視野に入れていきたいと考えている。

### 4 収支決算書

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳	
収入	長寿応援ファンド助成金	762,000	485,734	
	団体負担金	6,480		
	活動収入	80,000	54,900	各講座などへの参加費
	その他の収入			
	計	848,480	540,634	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

2

活動名	認知症の人や家族が孤立しないまちづくりとしての食をツールとした拠点づくりと訪問活動
-----	---

費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
----	--------	--------	---------

支出	謝礼金等	440,000	216,781	ボランティア養成講座、カフェ立ち上げ講座、フォローアップ講座など謝礼および源泉所得税
			うち 助成額 198,000	
	消耗品費	114,000	99,916	カフェたちあげに関するカップ、コーヒーメーカーなど備品購入 当初予定していたものをより安価に求めることができた
			うち 助成額 99,916	
	旅費 ・交通費	77,280	49,098	会議・各講座・地域のつどいなど出席者への交通費
			うち 助成額 49,098	
	印刷費	80,000	53,187	講座チラシなどデザイン委託料およびカフェについてのチラシコピー代
			うち 助成額 50,000	
	通信運搬費	39,200	5,573	チラシ送料 切手代など
		うち 助成額		
使用料・賃借料	98,000	88,720	研修会場、コミュニティ活動の場所代 現地の自治会館など無償で提供していただいたところもあった	
		うち 助成額 88,720		
備品費				
		うち 助成額		
その他の経費		27,359		
		うち 助成額		
計	848,480	540,634	執行率 (決算額/予算額) 63.7%	
		うち 助成額 485,734	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること	

3

活動名	認知症の人や家族が孤立しないまちづくりとしての食をツールとした拠点づくりと訪問活動
-----	---

## 5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった

活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の申請目的欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的な内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。 認知症や食を切り口とした地域のたすけあい活動やつどい場を立ち上げることにつながった。食事というのは、高齢者の毎日の生活に欠かせない要素であり、食事の提供を地域の居場所ですることにより、拠点として多くの人がつながりをつくることにつながった。また認知症についても正しい知識を知りたいという方が地域とつながり、仲間を得たり、活動の場を創ったりすることに結びついた。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。 自宅型カフェを立ち上げる活動の中で、「こういう場が地域にあるとみなさんがつながってとてもよいですね。」との声をもらった。また「自分の家もそうして(つどい場)にしてほしい。」とのニーズも挙がった。食事づくり活動では「みなさんと一緒にわいわいしながら作って喜んでもらえてとても嬉しい。」との反応が多くあった。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
	地域拠点やつどい場、そしてたすけあい活動がいかに地域の人たちにとって必要な場であるか、の実証となった。拠点ができると、さまざまな人の声が聴かれ、お互いを見守ったり、たすけあったりする姿が自然に生まれた。またあらたな活動やたすけあいの輪が広がる契機となっている。
	問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。
	区の助成を受けているということで、研修もイベントも安心して市民が参加していただくことができ、自治会等地縁組織や地域包括支援センターとの連携もスムーズに取れた。また拠点やつどい場に欠かせない備品を揃えることができ、活動をスタートすることができた。
その他	問8 自由意見
	1年間の活動に関して、いろいろな助成をいただけて、あきらかな推進となったが、実際にかかわるスタッフの件費が保障されないのは大変厳しく、この点は今後ぜひ検討いただきたいと存じます。

## 杉並区長寿応援ファンド助成活動報告書(平成28年度)

活動テーマ	<input type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 子ども・若者世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 世代間の交流を進める活動 <input checked="" type="checkbox"/> 誰もが住みやすいまちづくりを進める活動
活動名	地域の防災力の格差を是正し、「楽しく学ぶ」防災教育実践者の育成
団体名	地域防災コーディネーター育成機構 (平成 27 年 4 月設立)



効果・成果

《効果》  
 助成によって制作した「対象別オリジナルテキスト」とパソコンによる「スライドテキスト」によって、「人材育成講座」は、年2回の開催が可能となった。(春・秋連続講座合計8回開催)

また、多くの依頼要請をいただいた「出前講演会」は、可搬可能な「パソコン・プロジェクター」セットを持ち込み会場規模を問わず対応が可能となった。(年間13会場に対応した)

《成果》  
 世代、地域を超えて多くの依頼に直面して、やはり「地域の防災対応力」や「防災情報取得力」の”格差”が存在していることを痛感した。  
 地域防災コーディネーター育成機構が目指す「防災を楽しく学ぶ」という防災教育の基本は、大きな効果を発揮することが確認できた。  
 多くの参加者からの「声」「アンケート」から”今から家に帰って部屋を見直す、点検する」という「気付くを得て、減災行動を促す」効果が生まれ、最大の成果と自負している。

### 3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

\* 課題の要因も併せて記入してください。

#### 活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定

課題・活動予定

《課題》  
 29年度も引き続き、「人材育成講座」を開催し、「出前講演会・ワークショップ」依頼要請に対応していきたい。  
 ・機構の組織的整備を図り、「広報」「企画運営」「ホームページ制作」部門の充実を目指していきます。  
 ・「すぎナビ」「Web171」関連のデジタル防災情報活用講座の充実・発展を着手します。

《活動予定》  
 ・「人材育成講座」は、29年5月3日～31日 17:00～21:00 セシオン杉並で開催  
 ・「出前講演会・ワークショップ」ケア24、ゆうゆう各館、各町会、各学校などの依頼要請に対応していきたい  
 \*ケア24高円寺、高円寺地区民生委員児童委員協議会でご検討頂いている

### 4 収支決算書

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳	
収入	長寿応援ファンド助成金	503,000	453,000	パソコン、プロジェクター購入費、テキスト制作費等
	団体負担金			
	活動収入	120,000	89,326	「人材育成講座」収入、出前「防災講演会」講師料収入等
	その他の収入			
	計	623,000	542,326	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

2

活動名	地域の防災力の格差を是正し、「楽しく学ぶ」防災教育実践者の育成
-----	---------------------------------

費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
----	--------	--------	---------

支出	謝礼金等	50,000	うち 助成額		「防災学識経験者」等ゲスト講演者 * 依頼対象者無し	
	消耗品費	56,800	67,342	うち 助成額	43,800	プリンターインクジェット、ワイヤレスプレゼンター、 ボイスレコーダー、HMDIコネクター、ラベルプリンター
	旅費 ・交通費	35,000	12,970	うち 助成額		「防災人材育成講座」(春編)すぎなみ協働プラザ4回交通費 「出前防災講演会」13回交通費
	印刷費	150,000	180,432	うち 助成額	150,000	「人材育成講座用テキスト」7編印刷代(各100冊)
	通信運搬費	12,000	7,750	うち 助成額		「テキスト原稿」印刷所郵送費、講座資器材運搬タクシー代
	使用料・賃借料	10,000	9,400	うち 助成額		「防災連続講座」(秋編)セッション杉並使用料(4回分) その他施設会場出展料
	備品費	259,200	264,432	うち 助成額	259,200	パソコン、プロジェクター購入費
	その他の経費	50,000		うち 助成額		防災関連映像使用著作権料など * 内閣府、防災科学研究所より映像使用無料許諾にて未使用
	計	623,000	542,326			87.1%
		うち 助成額	453,000	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること		

3

活動名	地域の防災力の格差を是正し、「楽しく学ぶ」防災教育実践者の育成
-----	---------------------------------

## 5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった

活動内容 と 実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・ 成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の申請目的欄に記載した内容に対応させてください。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	1、28年度は、「人材育成連続講座」春・秋2回開催で受講者の中から19名に「地域防災コーディネーター」の「認証」を付与できた。 年間20名5年で100名の人材育成目標は第一年度として達成した。「認証者」は、現在西荻、高円寺、和泉、井草地区等で活躍
	2、「出前講演会・ワークショップ」は、各種団体様から予想を上回るご依頼を頂き、13会場にて開催できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。 *基本的には、すべての会場で「アンケート」は集計している。その主な感想は ①型通りの行政の「防災講演」とは違い「とても分かりやすかった。また聞いてみたくなった」 ②「今すぐ、自宅に帰って部屋の防災チェックをしなければならない、ことが良く理解できた」 ③「災害時に一人では何もできない。ご近所関係が大切だと改めて感じた」
問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。	
1、多くの地域の防災訓練が「いつも決まった人たちでやっている」イメージを払拭する「防災を楽しく学ぶ」という「減災教育」の有効性を改めて実感した。 2、大半の方は「防災の必要性は理解しています」が、「訓練のハードルが高い」「面白くない」という先入観があります。「防災教育を楽しく学ぶ」ことで、さまざま日常生活に近いところで“気づき”が促されます。良き防災行動に直結します。	
問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。	
1、「防災教育テキスト」を世代別・目的別の作成したことで、「防災・減災教育」を体系的に教育できる基盤が確立した。区内には、こうした「防災教育システム・プログラム」が皆無なので、今後も地域貢献として推進していきたい。 2、人材育成講座・出前講演会では、パソコンを使い「災害事例、災害現場」の映像を多用し、視覚的に訴える力が発揮された。「耳で聞く」講話では得られない、その災害現場の臨場感は、大きな教育効果が得られたのは間違いない。	
問8 自由意見	
28年度「長寿ファンド」助成を申請し、本当に良かった、と心から感謝しています。今後も、継続して着実に「人材育成」	
その他	

### 杉並区長寿応援ファンド助成活動報告書(平成28年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 子ども・若者世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 世代間の交流を進める活動 <input type="checkbox"/> 誰もが住みやすいまちづくりを進める活動
活動名	認知症予防プログラム
団体名	神明健康クラブ (平成 28 年 3 月設立)



活動費 (事業終了後確定額)	550,554 円		
助成額(当初交付)	429,000 円	助成額(決算)	429,000 円
活動目的	認知症の発症遅延を目的として、まだ認知症を発症していない一般の高齢者を対象に、有酸素運動と知的活動の習慣化を目指すため、地元3町会が中心になり地域型認知症予防プログラム実践ガイドに則り、ウォーキング、旅行、料理プログラムを実施。地域住民が自主的に地域活動を広げていく事を目指します。		

## 1 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

実施状況	<p>○ウォーキングプログラムの説明会 平成28年4月2日(土)、5月21日(土) 参加者93名  ○認知症ファシリテーター講習、ファイブコグ講習  平成28年4月5日(火)、12日(火)、5月10日(火)参加者22名(認知症予防の理論、ファシリテーターの役割と態度、プログラムの進め方、ファイブコグの概要、実施、採点など)</p> <p>○ウォーキングプログラム実施 平成28年6月4日～9月24日、毎週1回(合計16回)参加者43名  ○プログラム説明会 平成28年11月13日(日) 参加者53名  ○料理プログラ実施 平成28年12月3日(土)～3月25日(土)、毎週1回(合計16回) 参加者33名.1年通して認知症予防プログラムを実施し、目的である地元での自主化に向けた動きが活発に行われており、認知予防は有酸素運動と知的活動を楽しく継続していく事が最も大切であることの理解が深まったと思います。</p>
------	--

1

活動名	認知症予防プログラム
-----	------------

## 2 実施活動の効果・成果

\* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果

長寿応援ファンドにより、多くの方々が貴重な講習を受けることにより、認知症の予防理論や地域型認知症予防プログラムの進め方を学び、認知症ファシリテーターとして地域に貢献していくとの思いが芽生えたことは大変に良かった。また、プログラム参加者はプログラムが終了後もグループで集まり自主活動を継続しています。健康な高齢者がアルツハイマー型認知症へ移行する軽度認知症(MCI)の段階では主として3つの機能の低下が occurs。その3つとはエピソード記憶、注意分割機能、計画力です。健康な高齢者が認知症になるのを遅らせるためには、健康な状態もしくはMCIの段階でこの3つの機能を刺激する介入を行うのが理にかなっています。皆さんの様子を見ていて、プログラム通りに行えば間違いなく、認知症予防の効果はあると確信しております。

### 3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

\* 課題の要因も併せて記入してください。

#### 活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定

課題・活動予定

地域型認知症プログラムを進めるにあたって、認知症ファシリテーターの力量が問われるプログラムであります。ファシリテーターにはその場の臨機応変さが求められるため、もっと研鑽が必要と感じました。プログラム参加者は皆で話し合うのがメインの活動の為、単調になりがちです。今後は動きのある健康体操や有酸素運動と共に旅行や料理を並行して行うプログラムに挑戦していきます。今後の展開として、ファシリテーターの数を増やし、違う地域でも立ち上げたいと思います。

### 4 収支決算書

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳
収入	長寿応援ファンド助成金	429,000	429,000
	団体負担金		
	活動収入	281,388	121,554
	その他の収入		
	計	710,388	550,554

2

活動名	認知症予防プログラム
-----	------------

費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
----	--------	--------	---------

支出	謝礼金等	253,517	253,517	ファシリテーター養成講座 講師料
			うち 助成額 253,000	
	消耗品費	176,871	179,451	認知症予防プログラムテキスト(料理、旅行、ウォーキング)33冊、ファイブログ資料14冊、実践ガイド15冊、ファイブログ実施用DVD、「脳いきいき生活」パンフレット41冊の費用
			うち 助成額 176,000	
	旅費・交通費	180,000		参加者個人精算
			うち 助成額	
	印刷費	80,000	5,600	印刷費は3町会で分担、5,600円は参加者募集のチラシをプリントバックに依頼
			うち 助成額	
	通信運搬費			
			うち 助成額	
使用料・賃借料				
		うち 助成額		
備品費		10,800	お花代	
		うち 助成額		
その他の経費	20,000	101,186	参加者のテキスト代、保険料など	
		うち 助成額		
計	710,388	550,554	執行率 (決算額/予算額) 77.5%	
		うち 助成額 429,000	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること	

3

活動名	認知症予防プログラム
-----	------------

## 5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった

活動内容 と 実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切であった <input type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・ 成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の申請目的欄に記載した内容に対応させてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
	町会、ケア24が主体となって、認知症予防プログラムを行うことは画期的で、参加者も大変満足されており、自主化にもつながっていることが大成功と言えます。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
認知症予防は長期に継続してこそ効果が期待できます。この「地域型認知症予防プログラム」は有酸素運動や旅行、料理、パソコンなどの知的活動の習慣を身につけることを支援します。プログラム終了後は、これらを身につけた高齢者が、自立した活動を継続しながら新しいメンバーを募ったり、地域住民に認知予防の意義や効果を伝えたりすることが期待されています。	
問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。	
長寿応援ファンドにより、多くの方々が貴重な講習を受けることにより、認知症の予防理論や地域型認知症予防プログラムの進め方を学び、認知症ファシリテーターとして地域に貢献していくとの思いが芽生えたことは大変に良かった。	
その他	問8 自由意見

### 杉並区長寿応援ファンド助成活動報告書(平成28年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 子ども・若者世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 世代間の交流を進める活動 <input type="checkbox"/> 誰もが住みやすいまちづくりを進める活動
活動名	あたまの健康チェック&運動をとおして、団塊の世代の方の新しい地域包括の構築
団体名	NPO法人障害者就労支援センターどんまい福祉工房 (平成 18 年 12 月設立)

活動費 (事業終了後確定額)	687,000 円		
助成額(当初交付)	687,000 円	助成額(決算)	632,637 円
活動目的	認知症予防に対する意識を強く持っていただき、自身の予防対策に興味を持っていただくだけでなく、今ままで社会で培ってきた経験を活かし、団塊の世代の方が中心となった地域包括グループを各地域で立ち上げ発展させていく。高齢者が主体となる事で、本事業の検査や体操だけにとどまらず、認知症予防講座や傾聴など、当事者が興味のある活動を実施する事ができる。活動将来的には社会資源を活用した地域介護予防活動支援事業を構築する。		

## 1 活動の実施状況

**\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成28年7月25日16:00~21:00 ・場 所:阿佐谷地域区民センター</li> <li>・参加人数:参加者17名、講師3名、スタッフ3名</li> <li>・活動内容:認知症予防指導士養成講座 説明会</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成28年8月4日16:00~21:00 ・場 所:阿佐谷地域区民センター</li> <li>・参加人数:参加者7名、講師4名、スタッフ2名</li> <li>・活動内容:第1回認知症予防指導士養成講座一日目(認知症予防等講座・あたまの健康チェック講座)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成28年8月5日16:00~21:00 ・場 所:阿佐谷地域区民センター</li> <li>・参加人数:参加者7名、講師4名、スタッフ1名</li> <li>・活動内容:第1回認知症予防指導士養成講座二日目(BTSS講座)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成28年8月10日16:00~21:00 ・場 所:阿佐谷地域区民センター</li> <li>・参加人数:参加者7名、講師4名、スタッフ1名</li> <li>・活動内容:第1回認知症予防指導士養成講座三日目(テスト・あたまの健康チェック診断)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成28年9月8日18:15~21:00 ・場 所:阿佐谷地域区民センター</li> <li>・参加人数:参加者6名、講師4名、スタッフ1名</li> <li>・活動内容:第1回認知症予防指導士養成講座まとめ(合格者表彰式、今後の活動について)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成28年11月12日9:00~15:00 ・場 所:浴風会 介護フェア</li> <li>・参加人数:参加者40名、講師2名、スタッフ3名、第1回合格者3名</li> <li>・活動内容:第2回認知症予防指導士養成講座 説明会(第1回合格者によるデモ体験など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成29年1月23日17:30~20:30 ・場 所:高井戸地域区民センター</li> <li>・参加人数:参加者20名、講師2名、スタッフ2名</li> <li>・活動内容:第2回認知症予防指導士養成講座 説明体験会</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成29年1月26日17:30~20:30 ・場 所:高井戸地域区民センター</li> <li>・参加人数:参加者20名、講師2名、スタッフ2名</li> <li>・活動内容:第2回認知症予防指導士養成講座一日目(認知症予防等講座・あたまの健康チェック講座)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成29年1月27日17:30~20:30 ・場 所:高井戸地域区民センター</li> <li>・参加人数:参加者20名、講師2名、スタッフ2名</li> <li>・活動内容:第2回認知症予防指導士養成講座二日目(BTSS講座・あたまの健康チェック診断)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成29年1月30日17:30~20:30 ・場 所:高井戸地域区民センター</li> <li>・参加人数:参加者20名、講師2名、スタッフ2名、第1回合格者3名</li> <li>・活動内容:第2回認知症予防指導士養成講座三日目(テスト)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時:平成29年3月6日17:30~20:30 ・場 所:高井戸地域区民センター</li> <li>・参加人数:参加者20名、講師2名、スタッフ2名、第1回合格者2名</li> <li>・活動内容:第2回認知症予防指導士養成講座まとめ(合格者表彰式、今後の活動についてグループ討議)</li> </ul>	

1

活動名	あたまの健康チェック&運動をとおして、団塊の世代の方の新しい地域包括の構築
-----	---------------------------------------

## 2 実施活動の効果・成果

**\* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。**

効果・成果

本事業は今年度、モデル地域として阿佐谷、高井戸地区の2地域で実施することとし、阿佐谷地域は当法人の施設などもある地域だったため周知などに比較的苦労はなかったが、高井戸地区についてはどのように周知し実施していくか検討していた。本事業が長寿応援ファンド事業であった事もあり、社会福祉法人浴風会と協働するイベント(介護フェア)を組むことができた。その成果により第2回の事業には20名もの受講者が参加することになった。また地域への貢献としては、志の高い高齢者が集まったことで、近隣小学校の放課後支援のボランティアとしての参加案内やゆうゆう館での協働事業の講師としての依頼が来ている。

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

\* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定

課題・活動予定

本事業の継続にあたり一番の課題は活動場所の確保である。長寿応援ファンド事業として賃借料、講師代などを補填することができたが、活動が広がっていく中で場所の課題は深刻である。29年度は認知症予防指導士の資格を取得した方々にフォローアップとして年間3～4回全員で集まる機会を設ける。活動案内や指導士の皆さんの情報共有の場としてメーリングリストを作成し活用していく。また更なる認知症予防指導士の養成、また指導士の方の活動機会の拡充を図る。

4 収支決算書

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳	
収入	長寿応援ファンド助成金	687,000	632,637	
	団体負担金	61,384	88,747	
	活動収入	60,000	87,000	講習会参加費・白衣代 3,000円×29
	その他の収入			
	計	808,384	808,384	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

2

活動名	あたまの健康チェック&運動をとおして、団塊の世代の方の新しい地域包括の構築
-----	---------------------------------------

費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
----	--------	--------	---------

支出	謝礼金等	294,000	292,895	講師(医師) 22,274円×1名 計22,274円 検査講師 10,023円×13名 計130,299円 運動講師 6,682円×18名 計120,276円 チェック補助 3,341円×6名 計20,046円
			うち 助成額 292,895	合計292,895円
	消耗品費	60,000	83,950	マイク、ヘッドフォン、白衣、お弁当、講習時軽食など 53,775円
			うち 助成額	反省会 30,175円
	旅費 ・交通費	61,500	17,340	ガソリン代 17,340円
			うち 助成額	
	印刷費	156,000	156,000	印刷製本費・デザイン料 78,000円×2回
			うち 助成額	
	通信運搬費	68,200	61,464	通信費(ワイモバイル通信料)5,122円×12か月 送料
			うち 助成額	
使用料・賃借料	50,100	62,500	会場費 51,300円 駐車場 11,200円	
		うち 助成額		
備品費	118,584	116,402	パソコン 116,402円	
		うち 助成額		
その他の経費		17,833	その他経費	
		うち 助成額		
計	808,384	808,384	執行率 (決算額/予算額) 100.0%	
		うち 助成額	632,637	
			予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること	

3

活動名	あたまの健康チェック&運動をとおして、団塊の世代の方の新しい地域包括の構築
-----	---------------------------------------

## 5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった

活動内容 と 実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・ 成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の申請目的欄に記載した内容に対応させてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	本事業は認知症予防指導士の資格を取得した人がそれをもちいて何ができるのではなく、今回の講座で学んだMCIと認知症の違いや、BTSSを通して体験したデュアルタスク運動の体験談などを誰かに伝え広めていくことが本資格取得者の最初の仕事と考えており、取得された方の中でも実際にご自分で活動されている教室に、資格を取得された方々同市で参加しあうなどの効果がでている。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
	別紙アンケート参照
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
	団塊の世代の方をターゲットにしたことにより、一緒に活動していく方々はどんどん増えて行くことが予想される。これといった活動を決めて参加者を狭めるような展開を考えるのではなく、あくまでも自主的に自分の出来ることをやっていくことで、形にとられない地域貢献が可能である。
	問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。
	長寿応援ファンドは地域に根差した事業としてネームバリューがあり、参加しやすい。
その他	問8 自由意見
	杉並区の独自の取り組みである長寿ファンドは参加する側のメリットだけでなく、企画側にもメリットがあり大変よくできたファンドである。 高齢者の日ごろの活動(介護予防や認知症予防など)が杉並のためにも役立っていることを広く周知したい。

### 杉並区長寿応援ファンド助成活動報告書(平成28年度)

活動テーマ	<input type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども・若者世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 世代間の交流を進める活動 <input type="checkbox"/> 誰もが住みやすいまちづくりを進める活動
活動名	エールをおくろう！力をもらおう！南相馬交流ツアー
団体名	「クラシック音楽を楽しむ街・荻窪」の会 (平成 12 年 設立)



活動費 (事業終了後確定額)	1,094,500 円		
助成額(当初交付)	1,015,000 円	助成額(決算)	1,015,000 円
活動目的	荻窪音楽祭では3年間に亘り南相馬市原町第一中学校を招聘して、荻窪の小中学校とコンサートを開催しているが相互に行き来することで被災地に対して本当のエールが送れると考えます。南相馬に行くことで友情のあり方や被災地で力強く生活をしている方々と接する効果、またボランティアや自然エネルギーへの関心を持ってもらいたいと思います。被災地では招聘されることは多いが地元へ来客と行く方が少ないと聞いており、行くことがエールを送ることそのものだと考えています。中学生が被災地を自分の目で見る、そして考えること。体感をして、得られる効果は大きいと思います。		

## 1 活動の実施状況

**\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	平成28年 ・5月6日 天沼中学校藤川校長、担当藤原先生と訪問日打合せ(平成29年2月25～26日) 天沼中学校運営協議会で杉並区長寿応援ファンド助成の決定を報告 11名 ・5月24日 天沼中学校区地域教育推進協議会(15名)で南相馬市に平成29年2月25～26日訪問を報告 ・6月1日 天チャリ(天沼中学校チャリティマーケット・中学生徒主催事業)実行委員会で南相馬訪問を報告(20名) ・6月30日 藤原先生打合せ 募集内容、申込み書確認(4名) ・7月14日 天チャリ実行委員会で天チャリ当日の募集説明を確認(20名) ・7月23日 天チャリにて天沼中学生徒向けツアー参加の募集チラシ(添付資料①)を配布、説明を実施 ・9月23日 募集を完了、35名の参加希望者が集まる ・10月20日 参加する中学生と第1回交流検討会を実施(於:天沼中 35名) ・11月13日 第29回荻窪音楽祭第3回みらい夢コンサートへ参加予定生徒が参加。交流会に出席。 ・11月28日 第2回交流検討会を実施(於:天沼中 35名)
	平成29年

1

活動名	エールをおくろう！力をもらおう！南相馬交流ツアー
-----	--------------------------

## 2 実施活動の効果・成果

**\* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。**

効果・成果

まず、本事業は長寿応援ファンドの助成無くしては実現できませんでした。参加した杉並区立天沼中の生徒34名は第1回(平成27年)のツアー参加者も多く、継続して被災地を訪問し交流を希望する生徒が多くいました。そうした積極的な生徒たちに抛り、今回はツアー以前から学校で数度にわたって交流検討会を実施し、このツアーに備えてきました。結果として3つの交流事業を実現することができ、添付したアンケート結果の通り参加した生徒34名のうち、アンケートに回答した31名全員が次回の参加も希望してくれました。南相馬市の市職員の方々、現地の高校生、民宿の大人たち、農家の方々とは様々な方々と交流をしたことにより、生徒たちに多くの気づきが得られたことと思います。

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

\* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定

こうした活動は継続した訪問が必要ではありますが、来年度の実施については費用面で全く見通しが立っておらず、その点が課題と認識しております。

課題・活動予定

4 収支決算書

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳	
収入	長寿応援ファンド助成金	1,015,000	1,015,000	旅費・交通費、その他経費
	団体負担金	249,000	75,450	食事代ほか
	活動収入			
	その他の収入			
	計	1,264,000	1,090,450	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

2

活動名	エールをおくろう！力をもらおう！南相馬交流ツアー
-----	--------------------------

費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
----	--------	--------	---------

支出	謝礼金等		うち 助成額		
	消耗品費		うち 助成額		
	旅費 ・交通費	845,000	836,550	うち 助成額	836,550
	印刷費	80,000	9,000	うち 助成額	9,000
	通信運搬費			うち 助成額	
	使用料・賃借料			うち 助成額	
	備品費			うち 助成額	
	その他の経費	339,000	244,900	うち 助成額	169,450
	計	1,264,000	1,090,450	うち 助成額	1,015,000

3

活動名	エールをおくろう！力をもらおう！南相馬交流ツアー
-----	--------------------------

## 5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった

活動内容 と 実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切であった <input type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・ 成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の申請目的欄に記載した内容に対応させてください。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的な内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	・中学生が自分で考えて交流の企画を進められた。・市職員の方々との交流、現地の高校生との交流、現地の民宿の方々と の経営、農家の方々との交流、と前回に比べて交流の幅を広げることができた。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
	・参加者の声「自然はいつこわさにも変わるかわからない。おきてからでは遅い」、「津波の話聞いた一方で、海がとてもきれいで自然の力の強さを知った」、「震災が起きた地域とは思えないくらいみんな笑顔で、エールをおくる側も元気になれるような人たちがばかりで私とても元気をもらうことができた」、「震災から6年がたった今でも、まだ復興していない場所があるということを実感できる」、「社会の出来事を詳しく知るチャンスだと思った。これからもこのようなことがもっと近くで起きるかもしれないので、行ったことで知識になった」
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
	杉並区立天沼中学校は「中学生レスキュー隊」活動を推進しており、120名超の生徒がその活動に参加している。今回の参加者の中にもレスキュー隊参加者が多く、そのまま地域での防災活動に役立てられるものと思います。
	問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。
	今回参加した中学生は東日本大震災発災当時、6歳～8歳であったためその記憶は思ったほど生々しくない生徒が多かったように思います。そうした生徒たちにアンケート結果にあるような体験、思いを持ってもらえたことはとても良かったと思います。今後の交流をさらに希望する生徒も多く、今後の南相馬市との交流の力になるものと思います。
その他	問8 自由意見











